

大変貴重な御意見・御要望を頂戴し誠にありがとうございました。

## 1 学習指導について

### (1) 子どもたちの長所を伸ばして、やる気と自信のある人間に育てて下さい。

→教科指導は勿論のこと、その他の活動のあらゆる場面で生徒を多面的に評価していきます。社会で望まれるのは、決して学習能力の高さだけではありません。それぞれの生徒の持つ多様な長所を発見し、それを知らせ伸ばすことで本人の自信を高めるとともに、進路選択の適正化に繋げていくこともできると考えております。

### (2) 簿記や情報処理等で同じ学科なのに担当する先生が違う。教え方に差がある。授業の進め方について、理解できていないのに機械的に進めているのではないか？

→極力避けては居りますが、やむを得ず、同一学科内で教科担当者が複数になる場合があります。そのような場合には、事前に評価の方法、基準、観点などを協議し、クラスによって評価格差が現れないようにしております。

担当者によって教え方が違うということも聞かれますが、教え方は違っても最終的なゴールは同じです。生徒にはこのような力を身につけて欲しいという共通の目標を持って各担当者は授業を行っておりますので、どうぞ御理解下さい。

生徒が理解できていないのに、機械的に授業を進めているのではないかという話も聞かれます。授業担当者は、普段の授業や考査時等の評価機会に生徒の理解度について把握しますが、理解不足の場合は補習や課題など何らかの対策をとっています。今後とも、校内研修などを通して、指導力や評価の質を上げていきたいと思っております。

### (3) 家庭科の後期中間考査の評点について、ある男子生徒のテストが6点だったのに、60点以上の評点だったと聞きました。平常点は60点も与える事ができるのか？それを考えると家庭科のテストは必要ではないのではないか。

→年度始めに文書にて通知したとおり、本校では（県内の他校も同様）、今年度から観点別評価を本格的に実施しています。旧来の「考査点8割」、「平常点2割」のような評価割合から一新され、「考査点」の割合が大きく減り、「平常点」に代わる「考査以外点」（通常の授業等で行われる評価：レポート、課題、発表、作品提出などの多種にわたる方法による。）の割合が大きく増えました。「考査点」、「考査以外点」の割合は教科により違ってきます。特に、実技を取り扱う体育、家庭、商業科目などについては、考査点よりも考査以外点の割合が高い傾向があります。よって、考査点が著しく低い場合でも、考査以外の評価が高ければ、欠点（40点未満）とならない場合もありますので、御理解賜りますようお願いいたします。

## 2 進路指導について

- (1) 1学年の2学期に保護者への進路説明会を行って欲しい。保護者向けに進路の参考になる情報をもっと欲しい。他校では進学・就職の保護者向けの勉強会があり、とても参考になった。

→1・2年生に対する情報提供が不足していることにつきましては、率直に反省をいたしております。説明会の時期につきましては、学年により、指導の内容に違いがありますことから、学年毎に開催される「学年PTA」の時間をお借りするのが妥当かと思われまますので、その方向で検討させていただければ幸いです。また、内容につきましても、今年度の3年生の進路決定状況はもとより、進学を検討されるご家庭に向けて、奨学金制度や各種教育ローン等の借入と返済に関すること等、様々考えられますが、開催に先立って、保護者の皆様がどのような情報をお望みかを事前に調査した上で決めてまいりたいと考えております。

なお、本校では生徒全員に毎年「進路の手引き」を配布し、進路指導を行っております。この82ページからなる「手引き」には、過去5年分の本校の進路指導実績が記載されており、卒業生の進学先・就職先等、皆さんがお知りになりたいと思われる情報が具体的に記載されております。3回目となる2月の進路希望調査の際は、生徒に「手引き」を自宅に持ち帰るよう指示いたしますので、親子で「手引き」を御覧になりながら、卒業後の進路について話し合いをお持ちになり、調査に御回答くださるよう、お願い申し上げます。

## 3 生徒指導について

- (1) 盛商祭について、クラス毎の出店で（生徒もお客様なのは分かりますが）混みあっていたので一般客優先で対応してほしかった。

→ご指摘のとおりです。生徒全体へ「一般客優先である」ということを、しっかりと徹底させてまいります。

- (2) 部活動にメリハリがなく充実性に欠けると思われる部分があります。活動時間が長くても中身がないなら意味がありません。生徒個々の意識を高める指導をしていただきたい。

→活動開始時間、終了時間の厳守を含め、顧問と生徒たちが計画的に部活動に取り組めるように進めるとともに、部顧問対象あるいは選手対象の研修会やセミナーなどへの積極的参加を促してまいります。

- (3) スマートフォンの悪い使い方の指導について（身体への悪影響、世界中の不特定多数の人とのやり取りの危険性など）厳しい注意をもっとして欲しい。

→情報モラルの授業等で危険性を含め指導はしておりますが、今後は専門家の講演会も実施し指導の強化を図りたいと考えています。なおスマートフォンについては学校での指導には限界もありますので、御家庭での協力もお願いしたいと存じます。

- (4) ジャンパーの色が黒系のものの指定の意味が理解できない。子どもの安全を考えると、暗くなると危険である。また、防寒対策でも「くつ下をはくな」と指導された意味も分からない。

→「黒・紺を基調とし、盛商生としての品位を保ち華美でないものとする」という規定は制服について清楚端正を旨としたいという趣旨からご理解賜りたいと存じます。ジャンパーの色については華美でないものという範囲で、判断をしていただくとともに、反射材等の活用で事故の未然防止に努めていただきますよう御協力下さい。

靴下に関しては、儀式（入学式・卒業式等）の場合は、黒ストッキングとしております。靴下をはくなという指導はしておらず、はく場合はストッキングの下にはくよう指導しておりますが今後検討してまいります。

- (5) 全体的にもっと挨拶を活発にするように生徒たちにもう少し厳しく指導しても良いのではないか。

→校内・校外問わず挨拶が活発に出来るように指導してまいります。HR・教科・部活動・行事等機会を捉えて、挨拶の大切さを指導して参ります。ご家庭でのご指導もお願いいたします。

## 4 その他

- (1) 学校評価アンケートの質問事項に関して、選択肢が合わなく答えづらいものや学習指導のことなどは、授業の様子を見る機会があまり無く分かりづらい。

→いつも、本校教育活動にご理解・ご協力を頂き感謝申し上げます。質問事項に対する回答項目の選択肢が一部答えづらいものがありましたことお詫びいたします。次年度以降の質問項目及び回答選択肢の設定に際しましては、検討させていただきます。また、普段の学習指導に関しましては、お子様をとおして授業の様子をお聞きになって判断していただければ幸いです。なお、本校ではPTA総会時に授業参観の機会を設けています他に“学校へ行こう週間”、保護者が参加できる学校行事の開催など可能な限り学校公開を実施しております。ご案内は、ご息を通して配布されるプリント類の他、メール配信システム（楽メ）等を使用して今後も開かれた学校づくりを推進して行きたいと考えております。

- (2) 盗難事件について、学校の対応はどうなっているのか？生徒にも鍵付きロッカーが必要では？

→本年度校内で発生した問題行動等につきましてご迷惑・ご心配をお掛けしていますことにつきまして心よりお詫び申し上げます。年度当初より生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう指導してまいりましたが、残念ながら現金等の盗難事件が発生し、未だ解決に至っておりません。現在は、教室や更衣室、部室の施錠と個々の貴重品の管理の徹底に重点をおいて指導しております。いずれにせよ早期の解決を目指し安全・安心な学校生活を取り戻せるよう全力で努力してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

生徒用鍵付きロッカーについては、今後続発するような場合は検討いたします。

(3) 部活動の顧問の指導、対応について

→ご指摘ありがとうございました。今回はバレーボール部の顧問の対応についてご意見を賜りましたが、ご指摘の件、本人も深く反省し、岩手県の教育公務員として、バレーボール指導者としてふさわしい態度でもって指導にあたりと表明しています。また、事情があつて転部した生徒やご指摘いただいた方のお子様も含めて、当該顧問との関係性は良好であり、今後とも一層熱意をもって指導して参りたいと申しておりますので、今後ともご理解のうえ、どうぞよろしくお願ひいたします。

(4) 修学旅行での引率教員による「集合時間に遅れたサッカー部の生徒に対して選手権準決勝敗退の責任と関連づけた」発言について

→ご指摘ありがとうございます。このことについて、当該教員はその発言の経緯を

- ・修学旅行参加生徒245名の引率の責任者として、時間厳守を第一に考えていたこと
- ・日常生活における心構えが大事な試合や試験の結果につながることを教えたいことから、発言してしまったと申しております。

しかしながら、サッカー部の敗退の原因が、その注意を受けた生徒たちだけにあるわけではなく、多少論理の飛躍があり、生徒たちの心を傷つけてしまったことと存じます。この点に関しまして深くお詫びいたします。

ご案内の通り、盛商サッカー部は「勝利」を期待され、部員たちも一人ひとりが自覚し、盛商生の見本となれるよう一生懸命努力しております。学校といたしましてもサッカー部をはじめ全生徒がここ一番の時に勝利をつかめるよう、普段から気を引き締めて生活するよう指導し、生徒たちが心身ともに強い人間になれるよう引き続き応援して参りたいと存じます。

当該教員には論理的な飛躍による不適切な言動について慎むよう指導したところでありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。